

No.16-42 講習会 静粛設計のための防音・防振技術

URL <http://www.env-jsme.com/>

企画 環境工学部門

開催日 2016年6月10日(金) 9.30~17.10

会場 中央大学後楽園キャンパス理工学部2号館

[東京都文京区春日1-13-27/電話 (03) 5360-3500/東京メトロ丸ノ内線・南北線「後楽園」駅徒歩5分, 都営三田線・大江戸線「春日」駅徒歩6分, JR総武線「水道橋」駅徒歩12分]

趣旨 騒音や振動のために機械製品や設備の価値が半減することが多々あります。最近ではコスト削減から軽量化が推し進められ、振動や音が増加しやすい構造となっています。この講習会では、機械学会に所属され、実際に機械の騒音振動対策に具体的に取り組んでいる研究者・技術者が、防音・防振に関する基本から騒音低減に関する技術の勘所までと、簡単な実験を交えた騒音・振動対策の基本、静粛設計製品の開発方法、最新の吸遮音材料の使い方などについて解説いたします。

題目・講師

9.30~10.20/I. 機械の静粛設計・騒音対策の考え方

丸田芳幸 (中央大学)

静粛設計・騒音対策を進めるために、基本計画、現状解明、音源対策、伝播経路対策などを的確に行う必要が有る。いつ、どのようなツールを利用して各作業を実施するのかを、事例を交えて解説する。

10.25~11.55/II. 防音・防振の基礎理論

森下達哉 (東海大学)

防音の中の技術として、反射、吸音、遮音など、防振の中の技術として、除振、免振、制振など、いろいろな方法が考えられる。ここでは、これらの基礎理論を、事例を交えて判りやすく解説する。

13.10~14.40/III. 簡単な実験による騒音・振動対策の失敗例、成功例

北村敏也 (山梨大学)

実際に音を聞きながら、音の周波数による遮蔽効果の違いを理解する。また、なぜ音源側での対策が重要なのかなど、防音、防振対策の基本を、実験を通じて体験することで理解を深める。

14.50~16.50/IV. 事例に基づく振動・騒音の低減方法

飯田一嘉 (ブリヂストンケーバジー)

振動・騒音対策に利用される吸音材、遮音材、制振材、防振ゴムなどの構造・動作原理と、適用する際の注意点について解説する。実際の代表的なサンプル、実践的で効果的な適用法、適用例を紹介する。

16.50~17.10/V. 質問・相談への回答・アドバイス

飯田一嘉・丸田芳幸・森下達哉

講義内容に関する質問への回答に加えて、騒音・振動に関する業務で悩まれている課題のご相談があれば、解決に向けてのアドバイスを行う。

定員 40名, 申込み先着順により定員になり次第締め切ります。

聴講料 会員20,000円, 会員外30,000円, 学生員7,000円, 一般学生10,000円

開催日の10日前までに聴講料が着金するようにお申し込み下さい。以降は定員に余裕がある場合当日受付をいたします。

なお、ご入金後は取消しのお申し出がありましても聴講料は返金できませんのでご注意願います。

教材 教材のみの頒布はいたしません。

申込方法 申込者1名につき、行事申込書 (<http://www.jsme.or.jp/gyosan0.htm>) に必要事項を記入しお申し込みいただくか、Web (<http://www.jsme.or.jp/kousyu2.htm>) からお申し込みのうえ、聴講料のお振込みをお願いいたします。聴講券は発行いたしませんので、当日はお申し込み時の自動返信メールを印刷の上、会場受付までお持ち下さい。

[担当職員 村山ゆかり]